

## みずほ、インドネシアの後払い決済大手に170億円出資

2023/03/22 20:00 日本経済新聞電子版 651文字

みずほフィナンシャルグループは傘下のみずほ銀行を通じてインドネシアの後払い決済大手Kredivo（クレディボ）ホールディングスに約170億円を出資する。クレディボはクレジットカードが普及していない同国で後払いのニーズを捉え、600万人超の利用者を抱える。みずほは高い経済成長が続く東南アジアでの収益拡大を狙う。

みずほ銀行がクレディボが発行する優先株式を引き受ける。出資比率は10%程度になる。

クレディボは主に「バイ・ナウ・ペイ・レイター（BNPL）」と呼ばれる後払い決済サービスを手がける。インドネシアのECサイト主要10社中9社で利用可能という。BNPLは利用者が加盟店で商品を購入する際に事業者が支払いを立て替え、利用者は後から事業者に代金を払う。

アジアの後払い決済市場は邦銀の注目を集めている。インドネシアでは三菱UFJ銀行も22年12月に後払い決済のクラウドに資本参加すると発表していた。インドネシアはクレジットカードの普及率が数%と低く、銀行口座の保有率も約5割。電子商取引（EC）サイトなどで商品を購入する時にお金を前借りできるBNPLはクレカを持たない若年層などの人気を集めてきた。

みずほは21年にベトナムの決済アプリ「モモ」を手がけるMサービスに、22年にはフィリピンのデジタルバンク「Tonik」に出資している。アジア市場のデジタル金融で存在感を放つ企業への出資を通じて、アジア市場の取り込みを目指している。インドネシアは東南アジアの中でも人口が多く、今後も高い経済成長が見込まれる。



みずほはインドネシアの後払い決済大手に出資する

**許諾番号30093888 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。**

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.